研究調査報告

旧オランダ領東印度（現インドネシア共和国）に建てられた神社について

中島　三千男
（非文字資料研究センター　客員研究員）
津田　良樹
（非文字資料研究センター　客員研究員）
稲宮　康人
（非文字資料研究センター　研究協力者）

はじめに

2017年3月5日～13日、旧「海外神社跡地のその後」班（通称「海外神社班」、現「近代沖縄における祭祀再編と神社」班）のメンバー、中島三千男、津田良樹、稲宮康人の3人は、通訳の野仲ヘルミ氏と共に戦前（第二次世界大戦以前）に旧オランダ領東インド（以下蘭印と略、現インドネシア共和国）に日本人の手によって建てられた神社の調査を行った。

近年、隆盛を迎えている海外神社研究はこれまで東北アジアを主な対象としており、東南アジアについては全くの空白地帯であった。これを埋めるべく旧「海外神社班」は2016年に米領フィリピン（現フィリピン共和国）の調査を行い（本誌稲宮報告）、続いて今回（2017年）蘭印の調査を行った。

限られた日程の調査でもあるので、今回はジャワ島の八達威（バタビア）神社、忠魂祠、及び神社ではないが忠霊堂（以上、バタビア。1942年日本の軍政の下でジャカルタと改称、今日に至る）、ジャワ作戦記念館護国神社（バンドン）、報国神社（ボゴール）、鎮南神社（マラン）、スマトラ島の紘原神社（メダン）の6神社1忠霊堂の調査を目的にして出発した（実際に跡地及び遺構を確認できたのはジャワ作戦記念館護国神社、鎮南神社、紘原神社、忠霊堂である）。

蘭印における神社創建を論じるには、1942年3月～1945年8月までの日本による蘭印統治（軍政）の基本方針やその中での文化・宗教政策などを論じなければならないが、紙数の関係でこれらを含む本格的な分析は中島の別稿に譲り、本稿では意外にも少なくない神社が建てられていた事実について、現段階で把握している限りのものであるが簡単な紹介を行いたい。

1　蘭印における神社の創建

まず初めに、蘭印においてどれだけの神社が建てられたのか、現段階において我々が把握している限りのものを表にすると次のようになる（表1）。全部で19社あり、ジャワ島が半分以上の10社、スマトラ島が6社、ボルネオ島（現カリマンタン島）が3社である。表2は資料等で計画があったことは確認できるが、実際に創建されたかどうかは確認されていない神社の表であるが全部で4社、内訳はセレベス島（現スラウェシ島）で2社、ジャワ島、ビンタン島（シンガポールの南東の沖合）、各1社である。

図1はそれら（表1、表2）の神社の鎮座地をおおよその位置で示したものである。計画段階まで含めると、当然のことであるが、蘭印の主要な島々であるジャワ島（陸軍第16軍支配地域）、スマトラ島（同第25軍支配地域）、ボルネオ島、セレベス島（海軍支配地域）に建てられている。

創建時期を見ると、判明している限りでは、日本が蘭印を占領する前に建てられた神社は八達威神社だけで、1940年2月11日にバタビアの日本人会の敷地内に建てられた。あとは占領後に建てられた神社で、時期がはっきりしているものだけを見ても1943年、1944年に集中している。1942年1月に日本軍の占領が開始されて1945年8月の敗戦まで、インドネシアではよく3年半の占領・統治といわれるが、初期の占領政策が一応「落ち着いた」時期に建てられていると言えよう。

建てられた場所（鎮座地）は、それぞれの島におけるオランダ統治時代からの都市、それはまた同時に軍都でもあり、さらに日本の部隊の駐屯地でもあった。表・備考欄の㊀は軍隊施設内に建てられた神社（営内神社）

であるが、表１の 19 社中、８社がこれにあたり、蘭印の神社の半数近くが営内神社であることが分かる。ただし表１の 13、17、18、19 の陸、海軍の燃料工廠（石油基地）は、単に一部隊の駐屯地にとどまらず、複数の部隊、さらには一般の行政組織や商業施設なども置かれた一つの都市的性格を持ち、従って現地人も多数居住していた。本稿では具体的な分析は省くが、神社と現地人との関わりを考える場合、一般の都市に建てられた神社と共に重要な素材となる。

㊥は企業内神社であるが（表１の４、表２の２）、ここでも多数の現地人が働いている。

祭神は判明しているものだけでも、伊勢神宮（天照大神）関係が表１の 19 社中６社と最も多い。

神社の遺構が残っているのは表１の 10 旧紘原神社（現メダンクラブ）だけで、拝殿と社務所が一部改変されながらも現存している。

図１　蘭印に建てられた神社の鎮座地

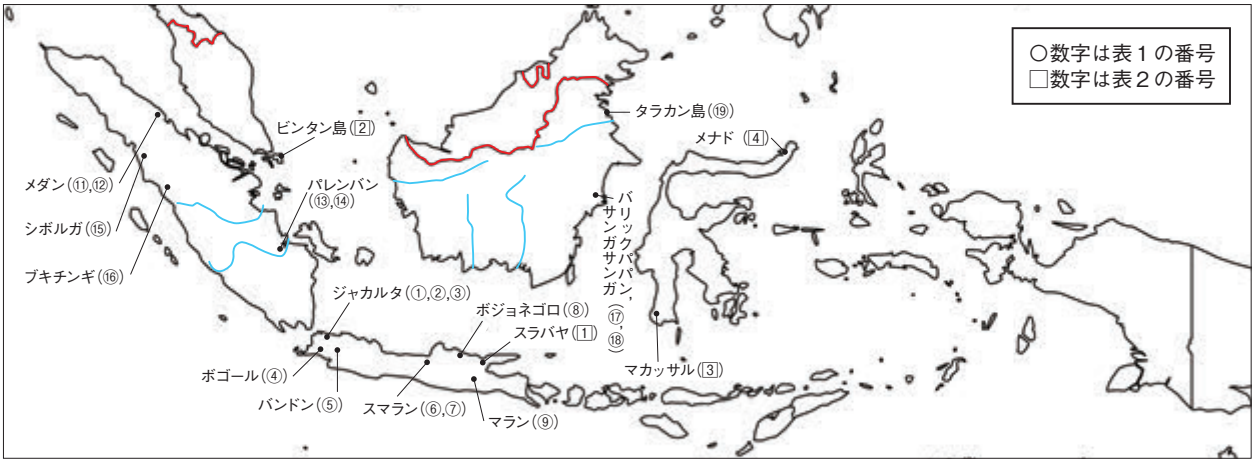

表１　蘭印に建てられた神社一覧

	島名	神社名	創建時期	鎮座地	祭神	廃止時期	備考
1	ジャワ島	八達威（バタビア）神社	1940.2.11	バタビア（ジャカルタ）	伊勢神宮別大麻		バタビア日本人会の敷地内
2	同上	（鎮南神社）	1945.4	ジャカルタ、治 10360 部隊（藤本部隊）営庭	マラン鎮南神社御分身		㊥
3	同上	忠魂祠	1944.4.3	（ジャカルタ郊外）マンガライのメンテンブーロ	日本軍戦死者		遺骨を奉安、「忠霊祠」ともある
4	同上	報国神社	1942.6.27～1943.1.9	ボゴール	皇大神宮御神符		㊥ KK日本タイヤ（ブリヂストン）ジャワ工場
5	同上	ジャワ作戦記念館護国神社	1943.11.8	バンドン、旧イソラホテル東庭	戦死者		第 16 軍宣伝部ジャワ班金子智一の主導
6	同上	三宝神社		スマラン郊外			
7	同上	豊秋津神社		スマラン郊外ジャチガレ兵舎内			㊥ 南方軍管轄第 16 軍幹部候補生隊、のち城戸部隊
8	同上	根護呂（ネゴロ）神社	1942.3.20～1943.6.20	ボジョネゴロ			報国神社との記載もある
9	同上	鎮南神社	1943.3～1944.1.1	マラン	皇大神宮「御神体」	1945.8	敗戦後、日本人の手ですぐ壊す
10	同上	鹿島神社	1943.5.16 造営中	（不明）			
11	スマトラ島	紘原神社	1944.4.7～1944.7.4	メダン	伊勢神宮別大麻		「メダンクラブ」として社務所、拝殿が残る
12	同上	護国神社	1944.8.11	メダン、紘原神社境内	軍人・軍属 227 柱		

13	同上	南宝神社	1943.9.24	パレンバン南スマトラ燃料支（工）廠第一製油所構内	天照大神	1945.8.29	㊫敗戦後、「奉還祭」を執行して、「奉焼」
14	同上	光徳神社	1943.8 ～ 1945.8	パレンバン、同上工廠後方陣地	佐世保の八幡宮御神符		㊫津田大佐持参の神符
15	同上	印度洋神社		北スマトラ・シボルガ			
16	同上	ブキチンギ（鳥見・とみ）神社	1943.6.24	中部スマトラ・ブキチンギ、第 25 軍司令部構内		1945.8	㊫敗戦後まもなく防空壕と共に爆破
17	ボルネオ島	（バリックパパン）神社	1942.1 ～ 1945.7	バリックパパン第 102 海軍燃料廠（精油所）			㊫
18	同上	サンガサンガ神社	1944.1	サンガサンガ第 102 海軍燃料廠（油田）	皇大神宮		㊫市内中央、密林の高地を敷地
19	同上	（タラカン）神社	1942.1 ～ 1942.6	タラカン島第 102 海軍燃料廠		1945.6.2	㊫豪州兵により焼破却

［註］

1 「神社名」欄の括弧書きは筆者が入れたもの。

2 「創建時期」欄の「～」書きは、現在のところ特定できていないので、日本軍が占領した、又は創建中が確認できる年月日を前に入れ、後に新聞資料等にその神社名が最初に出てくる年月日、又はその地が連合軍によって再占領された年月日を入れた。

3 「備考」欄の㊫は軍隊施設内に創建された「営内神社」、㊥は企業内に創建された「構内神社」を指す。

［出典］

1 八達威神社

①アジア歴史資料センター「在バタビア日本人会神宮神祠建立関係」（外務省外交史料館所蔵）昭和 14 年（1939）12 月 28 日　レファレンスコード B04012568500

②『東印度日報』昭和 16 年（1941）2 月 12 日「八達威大神宮臨時大祭」

③小笠原省三編述『海外神社史』（昭和 28 年、復刻版、ゆまに書房、2004 年 9 月）11 頁

2 （鎮南神社）

『ジャワ新聞』昭和 20 年（1945）4 月 19 日「木の香すがしく／治 10360 部隊／鎮南神社の遷座祭」

3 忠魂祠

①『ジャワ新聞』昭和 19 年（1944）4 月 2 日「仰ぐも神々しい忠魂祠」

②『同上』昭和 19 年（1944）4 月 4 日「木の香も新た／きのふ忠魂祠遷座式」

4 報国神社

①『読売報知』昭和 18 年（1943）1 月 9 日「ジャワに／報国神社／原住民毎朝感謝の黙祷」

②創立五十周年社史編集委員会『ブリヂストンタイヤ五十年史』（1982 年 3 月）121 頁

5 ジャワ作戦記念館護国神社

①『ジャワ新聞』昭和 18 年（1943）11 月 9 日

②阿羅健一　『ジャカルタ夜明け前 - インドネシア独立に賭けた人たち』（勁草書房、1994 年 1 月）100 ～ 101 頁

6 三宝神社

武田重三郎編『ジャガタラ閑話』（1968 年）34 頁

7 豊秋津神社

久士南鳳会編集委員会『学徒兵われら―久留米第一陸軍予備士官学校第十一期生の記録』（1984 年 12 月 1 日）、口絵、515 頁

8 根護呂（ネゴロ）神社

①『読売報知』昭和 18 年（1943）6 月 20 日「勇士の教鞭に“日本語町”新生」

②蓬莱山吹会事務局『台湾山砲戦記－南十字星のもと』（1984 年 9 月 1 日）496 ～ 497 頁

9 鎮南神社

①『ジャワ新聞』昭和 19 年（1944）1 月 3 日

②ジャワマラン会『鳴動ジャワマラン会誌』（1982 年 12 月 1 日）11 ～ 12 頁、17 ～ 18 頁、49 頁

③須山孝行氏（元マラン州官房長）聞き取り（2017 年 5 月 19 日）

10 鹿島神社

『シリーズ 20 世紀の記憶　大日本帝国の戦争 2 「太平洋戦争 1937-1945」』（毎日新聞社、1990 年 10 月 30 日）189 頁

11 紘原神社

①『ジャワ新聞』昭和 19 年（1944）7 月 4 日「必勝を祈る大祓の儀式」

②前掲、小笠原省三編述『海外神社史』11 頁

③鈴木啓之「社寺建築の伝承＜評論＞」（工学院大学校友会『校友会報』第 98 号、27 巻 1 号、1979 年 4 月）

④加藤裕氏提供写真　建設中の紘原神社本殿前での S 夫妻結婚式集合写真（1944 年 4 月 7 日）

12 護国神社

『ジャワ新聞』昭和 19 年（1944）8 月 16 日「メダンに護国神社」

13 南宝神社

①川嶋義雄「南宝神社のこと」（パレンバンの石油部隊刊行会『パレンバンの石油部隊』産業時報社、1973 年 2 月 1 日）90 ～ 93 頁

②田中実「実施した工事名並びに概要」（同上）120 頁

14 光徳神社

古荘武雄編『高射砲第 103 連隊史』（高射砲第 103 連隊戦友会事務局、1984 年 6 月）12 頁

15 印度洋神社

近藤肇「スマトラ戦中日記」（『東京都西多摩医師会報』第 140 号、1984 年 6 月 1 日）「昭和 19 年 5 月 29 日」付の日記

16 ブキチンギ神社（鳥見神社）

①大辻司郎『スマトラ従軍記』（非凡閣、1943 年 10 月 1 日）122 頁

②『時事年鑑』（昭和 19 年版、1943 年 12 月 1 日）411 頁

17 （バリックパパン）神社

①足立巌『バリックの空は赤く燃えて』（戦友会ボルネオ島バリックパパン想い出の会編　新風書房、1995 年 4 月）91 頁

②オーストラリア戦争記念館 The Memorial's Collection（99）photograph（62）「旧神社の境内にある芝生を刈りこんでいるオーストラリア兵」1945 年 7 月 10 日　受入番号 111593

18 サンガサンガ神社

『ボルネオ新聞』昭和 19 年（1944）1 月 26 日

『ジャワ新聞』昭和 19 年（1944）1 月 31 日

19 （タラカン）神社

①前掲、オーストラリア戦争記念館「豪州兵の墓地にするために、神社を焼却する豪州兵」1945 年 6 月 2 日　受入番号 108573

②前掲、オーストラリア戦争記念館「神社を破却・焼却し、道路の穴を埋める材料にするために神社の土台をバラバラにしている豪州兵」1945 年 6 月 7 日　受入番号 109216

③オーストラリア国立図書館　タラカン神社社殿　https : trove.nla.gov.au/work/231670042

④宮地喬『タラカン島戦記―僻地孤島の惨敗記』（原書房、1982 年 4 月 1 日）81 頁

表２　計画はあったが完成したかどうか不明の神社

	島名	神社名	鎮座予定地	備考
1	ジャワ島	スラバヤ神社	スラバヤ南地区ファンリベクラーン	1942 年 7 月地鎮祭執行。将来の邦人居住予定地。縦 600m、横 400m の敷地、動物園、柔剣道場、体育競技場を併せて設置予定
2	ビンタン島	（ビンタン）神社	シンガポール南東沖のリアウ諸島、古河鉱業所敷地内	㊙1942 年、上島清蔵所長が伊勢神宮から別大麻を拝受
3	セレベス島	セレベス神社	南部セレベス島、マカッサル近郊のスング・ミナサ郊外	セレベス在住邦人の神社。昭和 18 年 11 月建設の議が決定。敷地の選定が始まる。
4	セレベス島	メナド神社	北部セレベス島、メナド市テリン丘陵	北セレベス在留邦人の総意。昭和 19 年 4 月 18 日実施委員会の設置。地鎮祭を 5 月 5 日に予定

［註］
1「神社名」欄の括弧書きは筆者が入れたものである。
2　㊙は構内神社
［出典］
1　スラバヤ神社
　①『読売新聞』昭和 17 年（1942）7 月 11 日
　②『読売新聞』昭和 17 年（1942）7 月 15 日
2　（ビンタン）神社
　前掲、小笠原省三編述『海外神社史』11 頁
3　セレベス神社
　①『セレベス新聞』（メナド版）昭和 18 年（1943）11 月 14 日
　②『ジャワ新聞』昭和 18 年（1943）11 月 18 日
4　メナド神社
　①『セレベス新聞』（メナド版）昭和 19 年（1944）4 月 20 日
　②『ジャワ新聞』昭和 19 年（1944）4 月 24 日

２　蘭印に建てられた神社の写真、図

最後に、現在までに収集できた神社に関連する写真、図を紹介しておこう。

写真１　八達威（バタビア）神社
「バタビア日本人会　八達威神社前で　昭和 15（1940 年）」ジャガタラ友の会編『写真で綴る蘭印生活半世紀 - 戦前期インドネシアの日本人社会』、1987 年 8 月、78 頁

写真２　八達威神社社殿
遠藤正『蘭印の設定』（大阪：湯川光文社、1942 年 7 月）、口絵

写真３　忠魂祠
「忠霊に祈る醜敵撃滅」（『ジャワ新聞』昭和 19・1944 年 6 月 24 日）

写真４　報国神社（ボゴール）
「ジャワに／報国神社／原住民毎朝感謝の黙祷」（『読売報知』昭和 18・1943 年 1 月 9 日）

写真７　鎮南神社・手水舎（左後方に拝殿が見える）
今西君代「鎮南神社建立裏方の思い出」（ジャワマラン会編『鳴動ジャワマラン会誌』18 頁、1982 年 12 月）

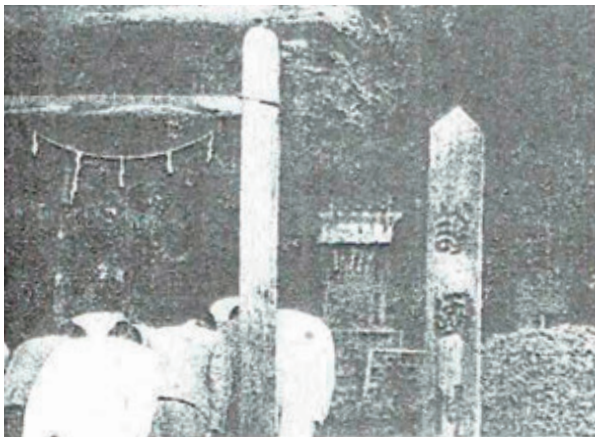

写真５　ジャワ作戦記念館護国神社（バンドン）
（『ジャワ新聞』昭和 18・1943 年 11 月 9 日）

写真８　鹿島神社　ジャワ島（都市名不明：筆者注）
「造営が進む鹿島神社…ジャワ島 1943/5/16」（『シリーズ 20 世紀の記憶　大日本帝国の戦争 2「太平洋戦争 1937 ― 1945」』189 頁、毎日新聞社、1999 年 10 月 30 日）

写真６　鎮南神社（マラン）
「Japanese Shinto Temple in Malang」
オランダ国立公文書館National Archives of The Netherlands
（URI http://proxy.handle.net/10648/aef4da60-d0b4-102d-bcf8-003048976d84）

写真９　旧紘原神社拝殿（現メダンクラブ、ホール）稲宮康人撮影、2017 年 3 月 11 日

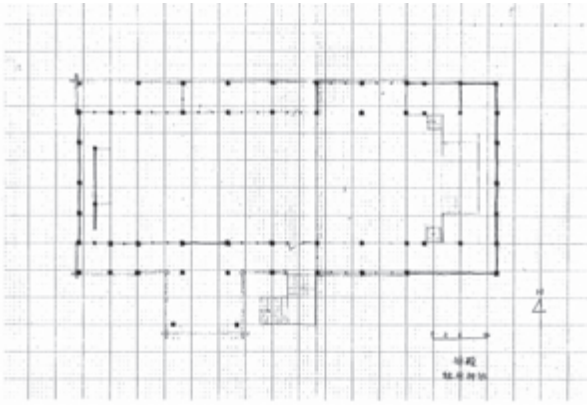

図２　旧紘原神社拝殿略平面図（現メダンクラブ、ホール）
津田良樹作成

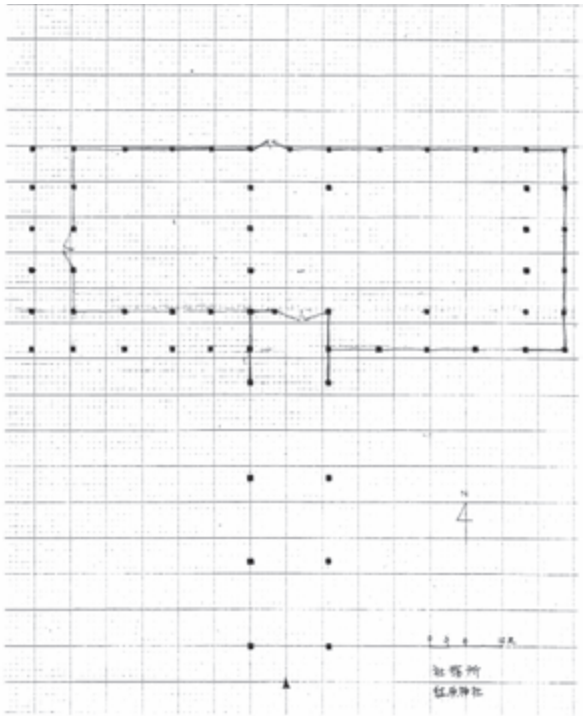

図３　旧紘原神社社務所略平面図（現メダンクラブ、レストラン）
津田良樹作成

写真 10　旧紘原神社社務所（現メダンクラブ、レストラン）
左側が旧拝殿、右側が旧社務所
稲宮康人撮影、2017 年 3 月 11 日

写真 11　建設中の紘原神社本殿前での S 夫妻神前結婚式後の集合写真
1944 年 4 月 7 日、前列、左から 2 人目、媒酌人州長官中島鉄蔵中将、その右隣は従軍作家としてメダンに居た小山いと子（新婦の母親役）。加藤裕氏提供

写真 12　旧紘原神社　本殿に向って玉串を奉奠しているところ。
後方の建設中の建物は表 1-12 の護国神社か？。加藤裕氏提供

写真 13　旧紘原神社本殿　加藤裕氏提供

写真 14　南宝神社（パレンバン）
川嶋義雄「南宝神社のこと」（パレンバンの石油部隊刊行会編『パレンバンの石油部隊』1973 年 2 月、産業時報社発行）91 頁

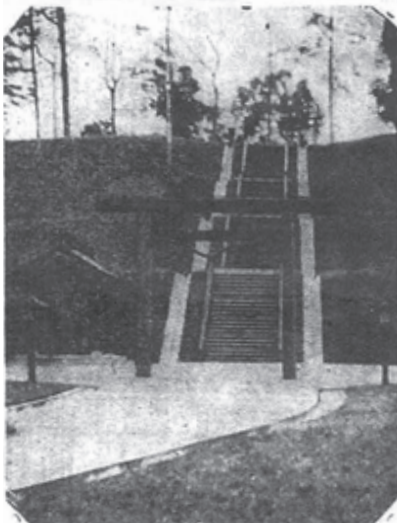

写真 15　サンガサンガ神社（ボルネオ島）
（『ボルネオ新聞』昭和 19・1944 年 1 月 26 日）

写真 16　豪州兵によって焼却されるタラカン神社（ボルネオ島）
1945 年 6 月 2 日、オーストラリア戦争記念館（19 頁「出典」19 の①）

写真 17　タラカン神社社殿
高さ 4 m、幅 2.9 m、オーストラリア国立図書館（19 頁「出典」19 の③）

謝辞

本稿作成については、野仲ヘルミ、斎藤由美子、加藤裕、小嶋敏弘、城田実、青木隆、小嶋亮、青木澄夫、草彅大貴、吉田晋、W.DEWEN、M.DWI CAHYONO、Abdollah SURKATI、加納啓良、永野善子、小倉幸一、須山孝行、須山恵子、菅ケ谷マコ、日本インドネシア協会事務局、坂井久能、山田禎介、到津勝、金山浩（敬称略）の各氏にお世話になった。特に加藤裕氏には貴重な写真やアドバイスをご提供いただき、須山孝行氏には、マラン州官房長時代の貴重な聞き取りを長時間にわたってさせていただいた。また畏友到津勝氏には多くの資料の収集でお世話になった。

さらに、国立国会図書館、オランダ国立公文書館、オーストラリア戦争記念館、オーストラリア国立図書館、メダンクラブ、国立公文書館アジア歴史資料センターの諸機関にもお世話になった。

以上の諸氏、諸機関に対して、記して深甚の謝意を表する次第である。（文責：中島三千男）